

今回の特集は膠原病である。編集後記を執筆するに際し、膠原病の定義はどうなっているのかを疑問に思っ調べてみた。上野賢一先生原著、大塚藤男先生著の皮膚科学第10版(金芳堂)では、「膠原病は結合組織のコラーゲン線維の膨化とフィブリノイド変性の特徴とする疾患群に与えられた病理組織学的概念である (Klemperer 1942)」となっている。

同書では、膠原病の項目には強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスのほか、overlap syndrome や混合性結合組織病 (MCTD)、シェーグレン症候群、再発性多発性軟骨炎、好酸球性蜂巣炎、抗リン脂質抗体症候群、関節リウマチなどが扱われている。今回の特集に2編含まれている好酸球性筋膜炎は強皮症の特殊型に分類されている。小児慢性特定疾病の対象疾患リストの膠原病の項目をみると、狭義の膠原病(若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎など)のほか、血管炎症候群(大動脈炎症候群、多発血管炎性肉芽腫症、結節性多発動脈炎など)、再発性多発軟骨炎、皮膚・結合組織疾患(全身性強皮症、MCTD)、自己炎症性疾患(家族性地中海熱、クリオピリン関連周期熱症候群など)が含まれている。血管炎や自己炎症性疾患を含むと考えると、膠原病はかなり広い概念となる。

膠原病は、診断が難しく予後が予想しにくい慢性炎症性疾患で、プレドニゾロンをはじめとする免疫抑制薬以外には対症療法しかない印象があったが、近年の診断や治療法の進歩は目を見張るものがある。強皮症では日本発のデータとしてリツキシマブ(抗CD20抗体)の有効性が示された。皮膚筋炎ではさまざまな自己抗体によって病型が細分化され、急速に肺線維症が進む抗MDA5抗体陽性例や悪性腫瘍の合併頻度が高い抗TIF1- γ 抗体陽性例では、自己抗体の検出により精査や対策を早期から適切に行うことが可能となっている。また、エリテマトーデスではヒドロキシクロロキンのほかに、アニフルルマブ(I型インターフェロン受容体拮抗薬)やベリムマブ(抗BLyS抗体)も承認された。血管炎でもリツキシマブやアバコパン(選択的C5a受容体拮抗薬)が顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症に、メボリズマブ(抗IL-5抗体)が好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に適応となっていて、治療法は進歩している。

今後、膠原病の病態の解明がさらに進み、より明確な疾患の分類や診断法、治療法が確立されることを望む。

(林 伸和)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第64巻 第13号 12月号

2022 年 12 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 47,630 円 (本体 43,300 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。